

地震や津波などにより、約2万人の命が奪われもしくは行方不明となった東日本大震災の発生から、4年が経ちました。復興が進められてはいるものの、未だに道半ばの状況です。災害を未然に防ぐため、私たちも土砂災害の防止に向けて、事業を着実に進めていきます。また、事務所では、現在1階の展示スペースで「忘れない。」～ 東日本大震災と救命・救援ルート確保 復興の記録 ～のパネル展示を行っています。

今後の土砂災害防止に向け研鑽を積む

岐阜県砂防ボランティア協会主催の、平成26年度「斜面判定士講習会」が、3月2日に岐阜市のホテルグランヴェール岐山で開催されました。この講習会は、当該協会員が研鑽を積む事を目的に、毎年開催されております。

当日は、岐阜県県土整備部より土砂災害防止法の一部改正と県の状況・取り組みについて、また岐阜大学の応用生物科学部より木村教授をお招きし「土砂災害を防ぐ」と題して、それぞれ講義が行われました。当事務所からも岩男事務局長をはじめ、7名が参加しました。今回の講習会で得た情報については、今後の土砂災害対策を進めていく際に役立てていきます。



木村教授の講義

東風吹かば匂ひ起こせよ梅の花

梅の花が各地で見頃を迎えています。古の歌人は、梅に静かな美しさや郷愁に思いを馳せたようです。「東風（こち）吹かば匂ひ起こせよ梅の花 主なしとて春な忘れぞ」とは、菅原道真が大宰府に左遷される時、道真の愛した庭の梅の花に別れを惜しんで詠んだ歌です。また、小倉百人一首の1つでもある、紀貫之が詠んだ「人はいさ心も知らずふるさとは 花ぞむかしの香に匂ひける」の花は、梅の花を意味しています。

岐阜県の梅の名所としては、岐阜市の梅林公園が有名ですが、揖斐川流域では、事務所管内より下流にある安八町の安八百梅園にも、毎年この時期は多くの人で賑わいます。



春風に吹かれつつ咲いています

昭和40年(1965)災害 / 『奥越豪雨』 ④

【揖斐川筋】

ドキュメント・東前の谷氾濫、30戸埋没 ②

中山慎雄さんは昭和35年に藤橋村役場に勤務、この災害時、消防団員と共に東杉原地区へ向かった一人である。中川さんによれば、当時、村内には自動車といえば、炭を運搬するための車2台と、役場にジープが1台しかなかった。車で東杉原へ向かったが、道路に土砂が降るように押し出して進めない。役場から1.5km程行った所で車を止め、歩いて向かった。揖斐川の右岸から東杉原地区を見れば、村を埋めた土砂の上を洪水が流れており、その水の深さがわからないので渡ることができない。団員の中に手旗信号の心得のある人がいて、信号を送って見たが通じない。手の施しようがなく、一部の人を現地に残して、消防団員はいったん村に戻った。中川さんは現地に残った一人だが、このときの心境は、大変心細かったという。

役場へなかなか現地の状況が届かなかったのは、こうした状況にもよるものだった。

9月15日午後は県警機動隊が出動、避難集落へ濁流の中を渡り状況を把握。その時はじめて住民全員の無事を確認した。同日夕刻には自衛隊も到着。16日から本格的な救助活動が始まったのである。

16日早朝、揖斐川町営グラウンドから救助物資を積んだ自衛隊のヘリコプター2機が飛び立ち、その到着によって孤立した徳山村《現揖斐川町》の状況がわかった。



救助活動

里山探検隊 隊員募集中!!

奥越豪雨災害から50年!

根尾白谷・徳山白谷の大崩れを知っていますか?

募集要領は [ココ](#) をクリック (事務所HPへ)



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしております。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp